化学物質の使用・排出量を把握し、リスク管理の考え方に基づいて削減に取り組んでいます。

●考え方

リコーグループでは、世界各地で規制の対象となっている化学物質を、「禁止」、「削減」、「管理」対象に分類し管理しています。「削減」対象の化学物質については、リスク管理の考え方を適用して削減に取り組んでいます。これは、各化学物質の環境影響の大きさに応じて環境影響度係数*1を設定し、使用量、排出量に重みづけすることで、環境影響の大きな化学物質を把握、重点的に削減していくという考え方です。また、環境リスクを未然に防止するためにグループで統一した基準を設定しています。この基準に基づき、各事業所は環境への浸透や流出などを防止するための取扱管理を徹底し、汚染予防に努めています。

*1 環境影響度係数は毒性、発ガン性、オゾン層破壊影響などを考慮して、リコーで設定した値です。

●2007年度までの目標

◎自社生産分に引き続き、社外生産委託分の感光体製造における塩素系有機溶剤の使用を全廃

●2005年度のレビュー

複写機向けサプライ品の感光体製造に使われる塩素系有機溶剤ジクロロメタンの代替化を自社生産分に引き続き、社外生産委託分についても展開しました。その結果、2005年度末に社外生産委託分の感光体製造における塩素系有機溶剤の使用全廃を達成しました。環境影響化学物質の使用量は2000年度比48%削減、前年度比約5,200トン削減*2となりました。排出量は2000年度比88%削減、前年度比約2,500トン削減*2となりました（グラフ❶）。

*2 環境影響度換算。

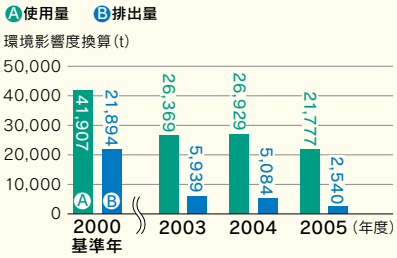
●今後の取り組み

化学物質の使用・排出については、事業が大幅に拡大しても、現状レベルを維持できるよう各部門や事業所が主体となって、削減活動を進めていきます。2006年度は、VOCの排出を削減するために、沼津事業所において、溶剤燃焼装置を導入する予定です。また化学物質管理、リスクコミュニケーションについての取り組みについて、レベルアップを図っていきます。

《リコーグループ全体》

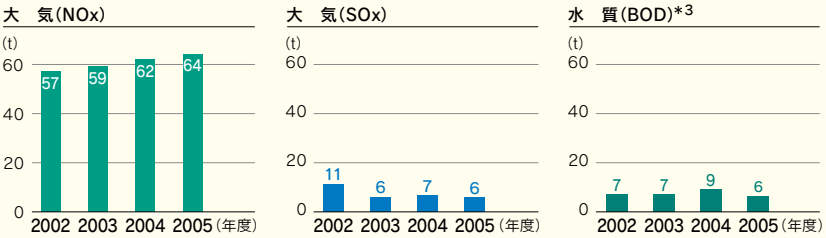
リコー削減対象物質の使用量・排出量推移

❶リコーグループ（生産）



公害防止関連項目の排出量推移

❷リコーグループ（生産）



*3 公共用水域への排出分を集計しています。

※ リコー削減対象物質とは、98～00年度に電気・電子4団体で実施したPRTRの対象物質です。PRTR法の定める物質とは、一部範囲が異なります。
個別の物質の使用・排出量についてはホームページをご覧ください。 http://www.ricoh.co.jp/ecology/data/index.html

※ ❶❷のグラフには、リコープリンティングシステムズとShanghai Ricoh Digital Equipmentのデータは含まれていません。

事業所における汚染予防活動のセグメント環境会計（リコーグループ全体）

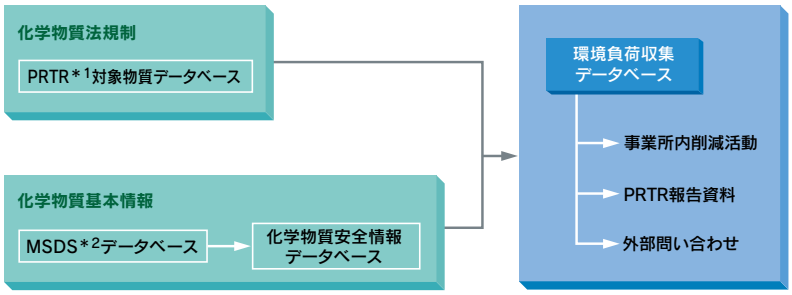
コスト			効果		
			経済効果		環境保全効果
コスト項目	主なコスト	金額	項目	金額	削減項目　削減量
事業エリア内コスト	公害防止コスト	486.6百万円	社会コスト削減額	378.6百万円	NOx……−1.3(t) SOx……0.6(t) BOD……3.2(t) PRTR対象物質 2,543.8(t) （リコー換算係数により合計）
			リスク回避効果額（偶発的効果）	1,127.5百万円	

ITシステムによる化学物質管理と情報開示

《リコーグループ／グローバル》

リコーグループは、独自に構築した「化学物質管理システム」によって、製造工程で使用する化学物質の使用量・排出量・廃棄量を把握しています。このシステムを活用して、使用削減活動の推進やPRTR資料の作成を行っているほか、世界各国のお客様やOEM先、市民団体などからの化学物質使用量に対するお問い合わせにも迅速に情報提供しています。

事業所の化学物質管理システム



＊1 Pollutant Release and Transfer Register（環境汚染物質排出・移動登録制度）
＊2 Material Safety Data Sheet（材料安全データシート）

INTERVIEW

社員に聞く　事業所の化学物質管理

沼津事業所、PRTR優秀賞を受賞。自らの強みと弱みを知り、今後の活動に役立てていきます。

RS事業部　沼津総務センター　環境安全推進グループ
（左）**長倉　明義**　（右）**加藤　広喜**

SSモニター制度、係数設定など独自の取り組みが高い評価

リコー沼津事業所では、従来から、PRTR削減部会を中心に積極的な化学物質管理に取り組んできましたが、これまでこうした取り組みについて客観的な評価をいただく機会はありませんでした。今回、自らの強みと弱みを知り、今後の活動に役立てる意味で、「PRTR大賞2005」＊1に応募しました。PRTR大賞とは、化学物質管理の取り組みに優れ、市民とのリスクコミュニケーションを積極的に行う企業を奨励する賞です。その結果、優秀賞をいただくことができました。主な受賞理由は、化学物質の管理体制や仕組みがしっかり構築されている点、各化学物質の環境影響度に応じて排出係数を設定するなど独自性のある取り組みがなされている点、また、リスクコミュニケーションでは、SSモニター制度＊2により地域住民との継続的な活動が行われている点でした。

＊1 （社）環境情報科学センター主催。2005年は2回目の開催。
＊2 SSモニター（SS=Social Satisfaction 社会的満足）近隣の地域より選出されたモニターに、事業所の活動についてアンケートや情報交換会でご意見をいただく制度。

PRTR優秀賞の表彰状と盾

受賞を励みに、さらなる活動強化と課題解決に注力

また、審査員の講評や大賞をはじめとした他社の事例から、自らの課題も明確になりました。環境リスク評価への取り組み、リスクコミュニケーションについてのスタンスの明確化、個別物質ごとの情報開示などです。これらの課題は、排出物質のモニタリングなど、一部すでに対策を講じているものもありますが、そのほかについても部会で早急に話し合い、具体的に対応していく考えです。とくにリスクコミュニケーションについては、課題を残している企業が多かったので、今後はこの点の強化が急がれるでしょう。今回の受賞は、日頃あまり表舞台に出ることのない私たちの活動にとって、よい励みとなりました。今後も活動のレベルアップを図っていきます。